

四 郷土の薬用植物各論

キク科

1 アキノキリンソウ

生地産状 自生、秋に小さい黄色の花を多数つける多年草

生薬名 一枝黄花（茎葉を乾燥）
効用 腎臓病、膀胱病、^{ぼうこう}のどの痛み、はれ物、解毒に煎服する。



アキノキリンソウ

2 キク

生地産状 観賞花卉として栽培種類が多い。
効用 頭痛、発汗に乾燥した花を煎服。葉汁は毒虫にさされたところにつけるとよい。花葉ともに食用にもなる。料理菊としては黄菊が用いられる。



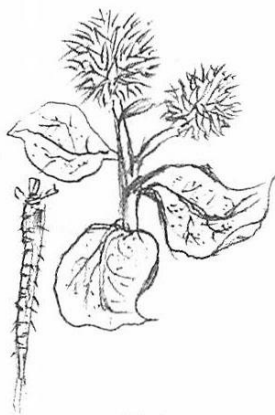
キク

3 キンセンカ

生地産状 栽培、一年草、観賞花卉
効用 茎葉の絞汁は打ち身によい。若葉はゆでて食用になる。



キンセンカ



ゴボウ

5 タウコギ

生地産状 えらぶでは内城のたんぼ・水辺に自生。
効用 茎葉を陰干しにして煎服すると、胃腸、下痢盗汗、出血に効く。若葉をゆで、油塩で調理して食用になる。

6 タンポポ

生地産状 自生、多年草、葉は土際に叢生し、^{そうせい}春に花茎を出し黄か自の頭状花をつける。実は白い冠毛をつけ風によって四散する。

4 ゴボウゲンボウ

生地産状 栽培
生薬名 ^{ゴボウ}牛蒡子（果実）、
牛蒡根 } 共に乾燥する

効用 はれ物、のどの痛み、むくみ、利尿剤に牛蒡子を粉末にして飲む。煎服すると、はれ物の口が開き、根をすりつぶして白湯で飲むと肉類の中毒を消し、みそ漬けにして食べると健胃にな

効用 乾燥した根を煎服すれば健胃、利尿によく、葉は食用になる。



タンポポ

7 ツワブキ

生地産状 自生

生薬名 たぐこ

効用 打ち身、おでき、湿疹には葉を火にあぶって



ツワブキ

8 ニガナ

生地産状 自生、多年生草本、葉は下のものほど細長

い。夏、黄色五弁の舌状花の頭状花序を開く。

茎・葉ともに白汁を有し、苦味がある。

効用 胃病に煎服すると効く。毒虫、はれ物に茎葉汁をつけるとよい。若葉はゆでて食用となる。



ニガナ

9 ノアザミ

生地産状 自生、多年生草本、葉は羽裂し裂片先端は

とげ状となる。五月ごろ頭状花を上向きにつけ、

中心は紅紫色の多数の管状花からなり、総苞の外側は粘質がある。

効用 葉、生の根をすりつぶしてはれ物につけるとよい。根を刻んで日干しにし煎服すると利尿、神経痛、胃病、水腫に効く。



ノアザミ

10 ノゲシ

別名 ハルノノゲシ

生地産状 越年生草本、全草軟らかく白汁がある。茎

は中空、葉は羽裂、春夏に黄色の頭状花を開く。

効用 茎葉は食用になる。

11 ヒマワリ

生地産状 栽培、花卉観賞、葉は長大で、茎は一〜二

メートルになる。夏、径二十センチほどの大形

の頭状花を開く。花後花托が肥大し蜂の巣状になり、果実が一個ずつ穴の中にある。

効用 茎葉を干して煎服すると解熱、リウマチスに効く。種子はあぶって食し、種子から製した油は食用になる。



ノゲシ



ヒマワリ

12 ベニバナ

生地産状 自生、葉の周辺に刺がある。夏、紅黄色の

アザミに似た頭状花をつけ、小花は細い筒形。

生薬名 紅花^{こうか}―乾燥した花

効用 葉、花を乾燥して煎服するとじんましん、産前後、腹痛に効く。種子から製した油は食用に



ベニバナ

13

ヨモギンフツク

生地産状 自生、多年生草本、葉は羽裂し、裏に白毛

がある。葉は香気を有す。秋、淡褐色の頭状花

を穂状につける。

生薬名 艾葉^{がいよう}

効用 通経、頭痛、瘀切りには葉を煎服する。子宮病、

腹痛、吐瀉、止血剤として一日八グラム煎服する。

葉汁に食塩を加えて飲むとアメーバー赤痢、食あ

たりに効あり。葉を塩でもみ、痛む歯につけると

即効がある。葉は薬湯、草餅^{くさもち}の料となる。



ヨモギ

桔梗科

14 ツリガネニンジン

別名 トトキニンジン

生地産状 山野に自生、多年生草本、高さ一メートル

ぐらい、三〜六葉輪生、夏〜秋にかけ淡紫色の

鐘形花を下向きに輪生する。

生薬名 沙参^{しゃしん}―乾燥した根

効用 乾燥した根を煎剤として、祛痰、健胃、強壯剤になり、肺熱を除く。若葉はゆでて食用にする。根も煮て食用にする。



ツリガネニンジン

ウリ科

15 南瓜・トーチフル・ゴーブラク

別名 カボチャ、唐茄子^{とうなす}

生地産状 栽培、一年生つる草、巻きひげを有し、葉

は大きく葉柄も太く長い。夏、大形黄色の雌雄

の花を開き、大きな果実を結ぶ。

生薬名 南瓜仁^{ナンカニ}―種子を乾燥し粉末にする。

効用 条虫駆除に南瓜仁を空腹時に煎服する。果実、種子は食用になる。花はゆがいておひたしになる。



南瓜

16 カラスウリ>ガラシヌマイケーク

生地産状 自生、多年生つる草、雌雄別株、花冠は白色、花弁のへりは細い糸のように裂けている。

晩秋に赤色の大きな実が熟す。

生薬名 王瓜根おうがこん 乾燥した根

王瓜子 乾燥した種子

効用 ヒビ、アカギレ、シモヤケ等のあれ止めとして果汁、果肉を患部に塗る。黄疸、利尿、血の道に王瓜根の煎剤を食前に服用する。王瓜子を食後に煎服すると催乳としてよい。



カラスウリ

17 西瓜

生地産状 栽培、一年生つる草、大きな切り込みのある葉、夏、小形の黄色い合弁花を開き、大きな実を結ぶ。

効用 果肉から果汁をとり、とろ火で煮詰めて西瓜糖を作り、一日三回、茶さじ一杯ずつ服用すると利尿・腎臓炎のむくみ・水腫によく効く。



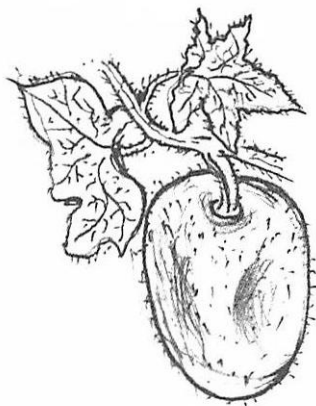
スイカ

18 冬瓜>シライ<トウガ、トウガン

生地産状 栽培、一年生つる草、葉は掌形しょうけいに浅く裂け、毛が多い。夏、葉わきに黄色の鐘形の花が開く。

果実は大きく白粉を帯びる。

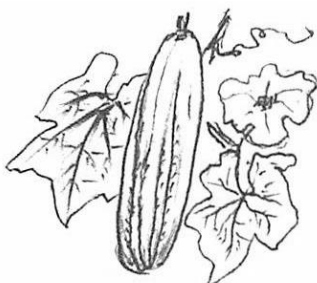
効用 消炎・利尿・緩下剤として種子を一日十グラム煎服する。腎臓・脚気・肋膜・腹膜にもよい。煎汁で痔を洗えば痛みを去る。



トウガン

り、夏、黄色の五弁の花が開く。雌雄同株で雄花は総状花序に、雌花は独立に咲く。果実は六十センチぐらいの円柱状で、米肉内に硬靱な繊維組織が網目状にある。

効用 痰・せき・利尿には種子を煎服し、または果実を煮た汁を服用する。水腫を治し、健胃にもなる。茎からとった水は化粧水となり、頭痛・火傷・痰切り等にもよい。花・若葉・果実は食用となり、果肉内の繊維はヘチマタワシとして用いられる。



ヘチマ

19 糸瓜>ナービラ<

生地産状 栽培、一年草つる草、葉は掌状、浅裂がある。

20 クサニワトコ・ウンカケヅク

別名 ソクズ

生地産状 山野に自生、多年草、夏、茎の先に白花をつける。果実は赤くなる。

効用 腎臓病・利尿に全草を煎服する。リウマチ・神経痛に浴湯料として乾燥したのを袋に入れて煮てから浴槽に入れる。



クサニワトコ (ソクズ)

21 クチナシ

生地産状 自生、栽培、常緑かん木、高さ一〜二メートル、葉は光沢あり。長だ円形、夏、白色大弁花を開き、芳香がある。果実は紅黄色となる。

生薬名 山梔子^{さんし} 果実を乾燥したもの

効用 解熱・清血・黄疸・淋疾・疝気・不眠症・健胃・通経に山梔子一日十グラムを煎服する。はれ物、打ち身、腰の痛みに山梔子を卵白でねつけて患部につけるとよい。染料、漬物の着色剤となり、花は食用になる。



クチナシ

22 オウバコ・フーバ草

生地産状 路傍、原野に自生、多年草、葉は長柄根生、広だ円形、夏、葉間から花茎を出し、白色の小花を穂状につけ、秋、黒褐色の実を結ぶ。

生薬名 車前子 乾燥した種子、車前草 乾燥した全草。

効用 せき止め・利尿に車前子を煎服する。車前草を煎服すれば健胃・消化不良・利尿によい。根を煎服すれば、痰切り・ぜんそくによい。はれ物には葉をあぶってはるとうみを出す。



オオバコ

23 ゴマ・グマハ

生地産状 栽培、一年草、高さ一メートルぐらい、夏、葉わきに一つの花を開く。筒状で白色、紫紅色のかさがあり、花後、さを結び、熟すると黒色となり、縦に四裂し、中に多くの種子がある。

効用 強壮剤・健胃・月経不順によい。油は食用となる。葉は止血によい。



ゴマ

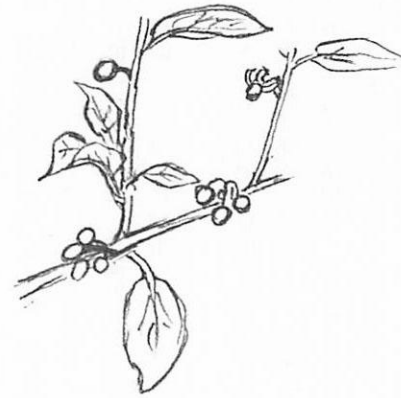
24 イヌホオツキ

別名 ウシホオツキ

生地産状 自生、一年草、高さ約五十センチ、枝分か

効用 横に広がる。葉は卵形。夏に白い花をつけ、秋、球形の実をつけ熟すると黒くなる。有毒で、小児が実を食べると、昏睡やひきつけを起こす。実は袋なく裸出である。

効用 はれ物に実・茎・葉をつぶして汁をつけるとよい。全草を煎じつめた汁をタムシにつけるとすぐ治る。



イヌホオズキ

25 センナリホオズキ

生地産状 自生、一年草、夏、緑黄色の小花を葉のつけ根に開き、果実は小形で、数が多く、熟しても赤くならない。

効用 淋疾・通経・熱さましには、根を煎服する。実を生で食べると虫下し、小児の疳が治る。実の汁を飲めば難産の妙薬。

26 ホオズキ

生地産状 自生、栽培、多年草、花は白色、先が浅く五裂し、下向きに咲く。花後、がくが発達して果実を包み赤くなる。

効用 せき止め・解熱・利尿に全草を乾燥させ、煎服する。果実は小穴をあけ、中の種子を取り除き、女兒が吹き鳴らしてがん具とする。



ホオズキ

27 タバコ

生地産状 栽培、一年草、高さ約二メートル、葉はだ円形、大形で、茎葉に腺毛があり、夏、淡紅紫色の漏斗状の花をつけ、花後、卵形の実を結ぶ。

効用 葉を刻んでつけると止血の効がある。葉は煙草になる。



タバコ

28 チョウセンアサガオンゼンシクタバコ

別名 キチガイナスビ・マンダラゲ

生地産状 自生、帰化植物、有毒植物、高さ約一メートル、秋、葉のわきに淡紫色、または白色の朝顔形の五弁花を開く。とげの密生した楕円形の果実を結び、種子は黒く多数で猛毒あり。

生薬名 蔓陀羅華 葉を乾燥したもの

29 トウガラシ・フシユ

効用 蔓陀羅華をタバコのようにして吸うとぜんそくが治る。スコポラミン、アトロピンの原料。



チョウセンアサガオ

生地産状 栽培、高さ約六十センチ、夏、葉のわきに白い小花をつけ、果実は長だ円形で熟すると赤くなる。一年草

効用 果皮および種子に刺激性の辛みを有し、乾燥して香辛料に用いる。食欲増進健胃剤となる。引赤薬として、炎症、神経痛によい。七味唐辛子の原料。



トウガラシ

30 なす 茄子・ナスビ

生地産状 栽培、一年草、葉は卵形、夏、秋に淡紫色の合弁花を葉のつけ根に開く。果実は球形、卵形、長だ円形で、紫黒色である。

効用 果実のヘタを蒸し焼きにして口中の諸病、乳の腫などに使う。ヘタの汁はイボ（クチビ）に効く。ヘタを漬物に入れると虫がわかない。果実は食用となる。



ナス

31 ヤンバルナスビ

生地産状 自生。

効用 解熱、強壯剤として根を煎服する。

シン科

32 サルビヤ

生地産状 花卉として栽培、高さ約九十センチ、茎は方形、葉に白毛があり、葉面に細いひだがある。

葉は卵形、夏、秋に濃紅色の唇形花を数多く輪生し先へ先へと開花していく。

効用 盗汗に乾燥した葉を煎服すると効く。



サルビヤ

33 シン

生地産状 栽培、一年草、茎は方形、葉は広卵形、紫

紅色で芳香がある。秋に長花茎を出し、淡紅紫色の小唇形花を総状につけ球状の小果を結ぶ。

生薬名 紫蘇葉、蘇葉―葉を陰干しにしたもの。紫蘇子―種子を陰干しにしたもの。

効用 蘇葉、紫蘇子共に煎服すると、健胃・かぜ・痰切り・利尿・血液の循環によい。細かく粉末状にしたものを熱湯で飲むと魚の中毒に効く。葉は梅干しに入れ、食用にもなる。

34 ハッカ

生地産状 栽培、多年草、茎は方形で、高さは約六十センチ、葉は長だ円形または卵形でとがる。夏、秋に葉のわきに淡紅紫色の唇形花を多数つける。全草芳香あり。

効用 葉を刻んで水蒸気蒸留してとった液は、胃・歯痛・頭痛などの痛みを止め、殺菌剤になる。ぜんそくにも効がある。清涼、興奮剤になる。



ハッカ



シン

【クマツヅラ科】

35 クサギハバシニヤク

生地産状 自生、高さ約三メートル、葉は広卵形で長柄があり、対生し、悪臭がある。夏、赤色のかくと白色の花冠の管状五裂の花を開く。果実は熟すると碧色になる。

効用 リウマチ・高血圧・利尿に葉を煎服する。煎じた汁で痔・はれ物の患部を洗うとよい。若葉は食用になり、果実は染料になる。



クサギ

36 ハマヒルガオノキ

生地産状 海浜砂地にあり、低木で幹は長く地をはい、所々にひげ根を下ろす。葉は卵形で裏に細毛があり、茎葉に特有の香がある。夏、深紫色の唇形花を穂状につけ、花後、球果を結ぶ。

生薬名 蔓荊子^{まけいし} 干した果実

効用 蔓荊子を強壯・清涼剤・頭痛・感冒に一日十グラム煎服する。神経痛・手足のしびれに種子三、葉茎七の割で五百グラム袋に入れ、煮出してから、袋ごと風呂に入れて入浴する。茎葉は蚊やりに用いる。



ハマゴウ

【ヒルガオ科】

37 アサガオ

生地産状 栽培、一年草 園芸植物、茎はつるで左巻き。夏、葉のつけ根から、ラッパ状の大きな花を開く。品種が多い。

生薬名 牽牛子^{けんじ} 種子を日干しにし、果皮を除き種子を乾燥したもの。
効用 下剤に牽牛子を一日〇・五グラムほど煎服する。



アサガオ

38 ハマヒルガオノハマカシラク

別名 ノアサガオ、グンバイヒルガオ

生地産状 多年草、海岸の砂地に自生、地下茎を長く伸ばし、地下茎は長く地に伏す。葉は腎臓形厚

【リンドウ科】

39 リンドウ

生地産状 永良部では内城方面にある。多年草、高さ



ハマヒルガオ

質で光沢がある。夏、葉のわきにアサガオに似たラッパ形の淡紅色の花を開く。花後果皮に包まれた四粒ほどの黒い種子を結ぶ。
効用 下剤として根を乾燥し、粉末にして一日一グラムを服用する。

五十センチほどで山野に自生、葉は笹に似て、秋、紫色鐘状の花を開き、花後、蒴果（はじける実）を結ぶ。

生薬名 竜胆^{りゅうたん} 干した根
効用 健胃剤とし竜胆一日〇、五グラムを服用する。



リンドウ

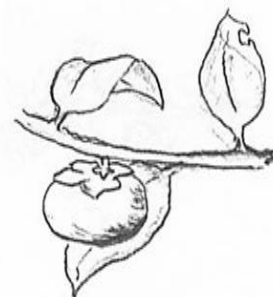
カキ科

40 カキ

生地産状 栽培、高さ十メートルに達する。落葉喬木^{きようぼく}。葉は革質。六月ごろ黄色味の四弁の雄花と雌花を開く。大型の果実がつく。

効用 魚の中毒に葉をすりつぶし、その汁を飲むとよい。血圧降下にさかずき一杯の柿渋^{かきしぶ}に大根お

ろしを混ぜて一日三回服用、乾燥葉を一日二十グラムを煎じて、お茶がわりに飲むのもよい。しやつくりにはへた五グラムにひねしうが同量、二百ccの水に煎じて飲む。果実は食用、渋をとる。



カキ

(サトイモ科)

41 ショウワ

生地産状 湿地、沼地に自生。根茎は泥の中に横たわり、節が多く、下部にひげ根がある。長剣状の80センチあまりの葉を出し芳香あり。初夏、花茎の中ほどに黄緑色の小花を密生。

生薬名 白菖^{はくしょう} 根茎を乾燥したもの

効用 健胃剤として白菖を煎服する。皮膚病に葉汁をつけるとよい。葉を煎服すれば疝氣に効き、しょうぶ湯は身体を温める。端午の節句（五月子子供の日）には葉を軒下にさし魔よけにする。



ショウブ

せり科

42 ウイキョウ>ウイチョ>

生地産状 多年草、砂地に自生、日当りよく通風のある砂地に栽培することもある。全体に芳香があり高さ約一メートル、葉は糸状に裂け、夏、多数の黄白色の小花の花序をつける。秋、多数の

果実を生ずる。
生薬名 茴香^{ういきょう} 果実が熟する前、果穂ごと採取し二三日、日干しにする。
効用 健胃、駆風（腹にたまったガスを排出すること）、痰切りに茴香を粉末にして服用する。若葉はゆでて食用となる。カレー粉の黄の原料となる。



ウイキョウ

43 チドメグサ

生地産状 多年草、小さな雑草として、人家の湿地に自生する。細茎は地上をはい、節から根を出し、葉が出る。葉は円形で長柄、夏、白か紫色を帯びた小花をつける。

効用 止血に茎葉の絞り汁をつける。葉をもんでタムシにはると治る。乾燥した全草を10グラム水

四百ccを半量に煎じて服用すれば解熱、利尿によい。ほし目に煎液で洗眼する。



チドメグサ

44 人參ハミジヌメ

生地産状 一年草、栽培。葉は根生の複葉、花は小形白色で、長い花茎の上に密生。根は長円すい形か紡錘形をなし、普通赤色。

効用 根と若葉は食用になる。根を焼いて食べると寝小便が治る。蒸して軟らかになったものを切

り傷につけるとよい。水腫・腎臓病には種子を煎服する。

45 ハマボウフウハミジメ

生地産状 多年草、海浜砂地に自生。全体に淡褐色の長軟毛を密生、葉は羽状複葉、夏、白の小形の花をつける。



ハマボウフウ

効用 根を刻み陰干しにし乾燥したのを8グラム水

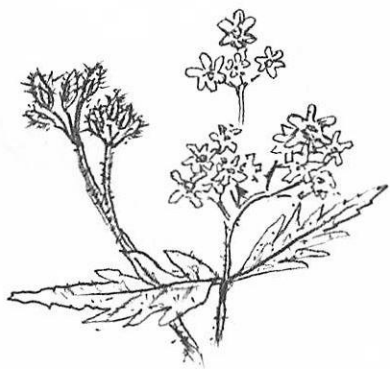
二百ccで二分の一になるまで煎じ服用すればかぜが治る。袋に入れて煮てからふろに入れると血行がよくなる。また根は辛味香気があり刺身のつまになる。

46 ヤブジラミ

生地産状 一年草、山野に自生、高さ約一メートル。

茎葉に細毛があり、葉は羽状複葉。夏、白色の小五弁花を密生。果実は刺毛があり、他のものに付着しやすい。

生薬名 蛇牀子 じやしようし 果実を乾燥したもの
効用 蛇牀子は消炎・強壯剤となる。



ヤブジラミ

47 ザクロ

ザクロ科

生地産状 栽培、高さ約六〜七メートル、幹にはこぶが多く、枝にとげがある。夏、鮮紅色の筒状花

を開き、果実は大きい。果実は黄紅色で黒斑があり、熟すると裂けて中から淡紅色透明の皮をかぶった多数の種子を露出する。

効用 条虫下し・下痢止・腹痛・アメーバー赤痢に樹皮を煎服する。花を煎じて飲めば下痢・コシケが治る。葉を陰干しにして茶代わりに飲めば健胃剤となる。



ザクロ

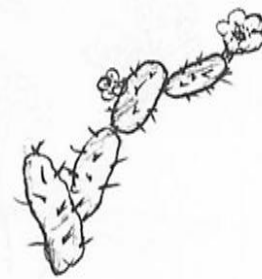
48 サボテン

サボテン科

生地産状 自生または栽培、常緑多年草、茎は扁平、円柱、球形等種類が多い。表面には葉の変形し

たとげがある。花は多くは、赤、黄、白色である。

効用 はれ物や脚氣に茎をすって汁をつけるとよい。



サボテン

効用 果実は食用となり、瀉物にもする。消化を助け母乳催進剤となる。枯葉を煎服すればアメーバー赤痢によい。



ババイヤ

【ババイヤ科】

49 パバイヤマンジヨウイ

生地産状 栽培、喬木、幹は柔軟で分岐しない。葉は梢頭^{しやう}に叢生、長柄を有し、掌状に分裂。ヤツデ型、雌雄異株、雄花は黄色肉質で五弁、雌花は短柄叢生、果実は大きく、熟すると黄色になり芳香あり。

【スミレ科】



スミレ

【アオイ科】

51 トロアオイマンジブタン

生地産状 自生、栽培、一年草、高さ約一メートル、葉は長柄、互生、掌状に深裂、夏秋に葉梢に黄色で底部が紫色の大形の花を開き、花後、だ円形の種子を結ぶ。

効用 乾燥根を刻み、熱湯に入れて飲むと、せき、のどの痛みによく、はれ物を散らす。根の粘液は和紙の糊料にする。

【ブドウ科】

52 エビスルンハニラ

生地産状 山野に自生、全株に淡褐紅色か、灰白色の綿毛を密生、巻きひげがある。葉はブドウに似て小さい。夏、複総状花序の花をつけ、花後、紫黒球形の実を結ぶ。

効用 急性皮膚炎（タノー）に茎を切つて一方を吹き反対側から出た汁をつけると治る。葉は乾燥してもんでモグサとし灸^{きゅう}の材となる。



トロアオイ



エビズル

鳳仙花科

53 ホウセンカ・ハマクラノ

生地産状 栽培、一年草、高さが約四十センチ、幾種類もあり。夏、赤・白・紫・絞りなどの花を開く。果実は熟すると、果皮が開裂して種子がはじき出す。茎は多肉質で、葉は長だ円形で両端がとがっている。

生薬名 急性子―種子を日干しにして乾燥したもの。
効用 魚肉中毒に種子二グラムを水二百ccで半量に



ホウセンカ

タカトウダイ科

54 フクロホンクシヤバニシ・ミックラニジノ

生地産状 自生、石垣によく生えていた。小喬木で、莖は五角形で、角ばった所に一列に葉がつき、葉の下部に二つのとげがある。

効用 タムシノクシヤバノに乳状の樹液をつけるとよい。樹液は毒気が強く目に入ると盲目になる。



フクロキ

55 ユズリハ

生地産状 山地に自生、常緑喬木、高さ約五メートル、



ユズリハ

センダン科

56 センダン・シンダン木

生地産状 自生または栽培、落葉喬木、高さ約八メートル、葉は羽状複葉、初夏、淡紫色の五弁の小花を多数つけ、芳香がある。果実は秋に黄熟する。

生薬名 苦楝皮―幹皮を乾燥したもの
効用 条虫・回虫・駆虫剤として苦楝皮一日十グラムを空腹時に煎服する。ひび・あかぎれ・しもやけに熟した果肉を患部に塗る。実を乾燥した

若い枝と葉柄は赤みを帯び、葉は長だ円形で厚く葉裏は白みを帯びている。五月ごろ、黄緑色の総状花を配列し、だ円形の核果を結び、秋、熟して暗緑色になる。新葉が成長してから旧葉が落ちるので、この名がある。

効用 駆虫剤として葉の煎汁を用いる。寄生性皮膚病は煎液で洗う。若葉はゆでて食用にし、老葉は炒粉とする。葉は正月の飾りものにする。



セندان

のを煎服すれば熱さまし・利尿にもよい。

ヘンルーダ科

57 イヌ山椒 *Sambucus racemosa*

生地産状 自生、落葉灌木、高さ約二メートル、さんしょうに似る。葉は長く、芳香がない。夏、淡緑の花をつける。

効用 せき止めに果実一回五グラムを水二百ccで半量に煎じ、冷めないうちに服用する。砂糖を小



サンショウ

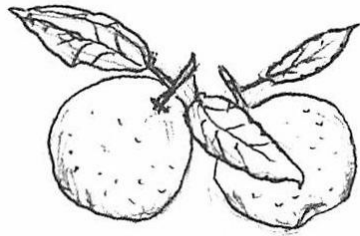
量加えてもよい。十二脂腸虫には根皮を煎服する。打ち身・肋膜炎・肺炎に乾燥した葉を細かくもみ碎き、小麦粉と酢で練り合わせ塗布すると効く。患部の炎症の熱をとるので、葉は硬くなるから、ぬるま湯でふくようにして取り、新しいのと取り替える。

58 ミカンクリン *Microcarpaea*

生地産状 自生、栽培、常緑小喬木、葉は長卵形、互生六月ごろ白色五弁の花を開き黄色の果実をつける。芳香がある。

生薬名 陳皮 ちんぴ 果実の皮を乾燥したもの

効用 せき止め・痰切り・かぜ・利尿・発汗・消化



ミカン

剤として陳皮五グラムに砂糖を加えて熱湯を注いで飲む。ミカン風呂は生の果実の皮を入れると血行をよくする。

カタバミ科

59 カタバミ *Antirrhinum*

生地産状 道端、庭先などに自生、多年草、開花期は春から秋まで長く、黄色の小花が咲く。花後、円柱形の果実を結び、熟すると、果皮がはじけ、



カタバミ

中の種子がはじけ飛ぶ。

効用 かいせん・虫刺されには葉汁をつける。茎葉を煎服すると淋疾によく、痔、脱肛には煎汁で洗うとよい。漂白剤、媒染剤としても用いる。

フウロソウ科

60 ゲンショウ *Platycodon grandiflorus*

生地産状 自生、多年草、茎は細長く、枝多く、半ば地上にはう。茎葉に細毛がある。葉は掌状に分裂、夏五弁の白か紅色の花をつけ、花後、果実を結び、はじけて種子を放出する。花の咲く前は毒草ウマノアシガタに似ているので注



ゲンノショウコ

意。細毛が上向き、ゲンノショウコは茎に直角になっている。

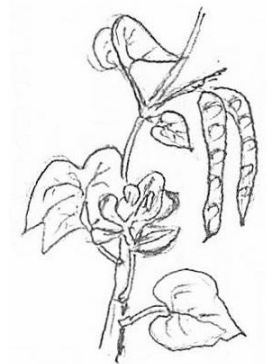
効用 下痢止め、胃腸病に茎葉を陰干しにしたのを煎服する。赤痢には一日三十匁を煎服する。

荳科

61 アスキ

生地産状 栽培、一年草、高さ約七十センチ、葉は裂けて複葉、夏、葉わきに黄色蝶形の花をつけ、秋、赤豆十個ほど入ったさやをつける。

効用 消炎、利尿に一日二十グラムを煎剤となし、または黒焼にして用いる。脚気・催乳・緩下剤



アズキ

にアズキガユにして用いる。

62 カワラケツメイ

生地産状 河原、土手に自生、一年草、茎に短毛、葉は偶羽状複葉、花は秋に黄五弁で葉わきに咲く。果実は扁平、短毛、種子が数粒ある。



カワラケツメイ

効用 利尿・駆虫剤として茎葉の乾燥したのを一日十五〜三十グラム煎服する。茎葉、種子は水腫・脚気・健胃剤にもなる。俗にハマ茶、マメ茶、コウボウ茶といって茶の代用に使っている。

63 タンキリ草

生地産状 自生、多年つる草、茎葉は褐色の短粗毛があり、茎は他のものからみつき葉は三小葉の羽状複葉で長柄互生、夏、葉わきに黄色の小蝶形花数個をつけ、後、莢果を結ぶ。莢果は熟して黒赤色の種子を二個ずつ露出する。



タンキリマメ

効用 全草、祛痰剤として煎服する。種子は食用になる。

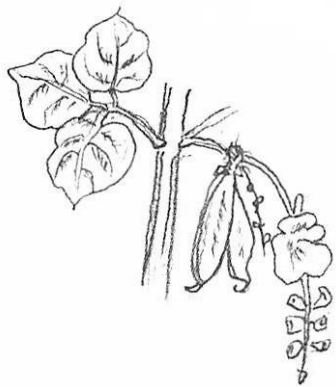
64 デリス

生地産状 栽培、小灌木、多くはつる性、葉は羽状複葉、花は紅色、根は細長く多くの毒成分を含む。

効用 樹液を疥癬に用いる。根茎は農業用、家畜用殺虫剤の原料となる。

65 ナタ豆>タチマチ<

生地産状 栽培、一年草つる草、夏、開花、長柄に淡紅紫色の蝶形花をいくつもつける。豆果は長く平たくサヤ状で中に紅色か白の種子が八〜十個



ナタマメ

として茶の代用としている。

66 ハブ草・ハブ茶

効用 種子を煎服すれば、せき・肺病によく、強壯剤にもなる。豆果は漬物としても用いる。

生地産状 栽培、半自生、葉は羽状複葉で、五〜六枚が対になっており、豆果は十センチぐらいでサヤの中に二列に種子が多数入っている。五弁の黄色の花を咲かせる。

生薬名 望江南―種子を日干しに乾燥したもの



ハブソウ

効用 毒虫に刺されたとき葉汁をつける。望江南は煎服すれば、下痢・腹痛・食傷によい。ハブ茶

バラ科

67 ノイバラ・アーニジク

生地産状 自生、四〜五月ごろ、ほのかな香りのする純白五弁の花を開き、秋、紅色の実を結ぶ。枝には鋭いとげがある。



ノイバラ

効用 実が深紅色に熟する前に採取し、日干しにする。これを営実といっている。

68 ヒヨドリバナ

利尿・下剤・おでき・にきび・はれ物に一日五グラムを煎服する。おでき・にきび・はれ物にはその煎汁で患部を洗ってもよい。

生地産状 栽培、常緑高木、葉は長だ円形、厚く堅く、下面に褐毛がある。十一月ごろ黄白色の佳香の小花をつけ、翌年初夏に黄色の果実を結ぶ。

効用 種子は鎮咳薬である杏仁水きょうにんすいの原料となる。葉は健胃剤・せき止め・のぼせ・腎臓・気管・淋疾に煎服する。



ビワ



モモ

効用 産前産後・血の道・月経不順に種子を砕き五グラムを煎服する。利尿・緩下剤に白桃花を乾燥したのも三グラム煎服する。あせもには葉をふろに入れて浴するもよく、葉汁を患部につけても効く。

69 モモムツク

生地産状 半自生、栽培、落葉小高木、四月ごろ、淡